

世界のIT事情 マレーシア編

めざましい発展を遂げる東南アジア有数の工業国・マレーシア。豊富な資源と海外で学んだ技術力により、家電やデジタル機器を輸出し、先進国の仲間入りも目前だ。

世界に誇る技術吸収能力で 情報産業都市を建設

80年代のマハティール政権時代より、積極的な対外開放と経済振興策を推し進めてきたマレーシアは、90年代には「新興工業経済地域（NIES）」の一角を占めるほどに成長した。一人当たり名目GDPは日本の4分の1ほどだが、東南アジアではシンガポール、ブルネイに次いで高く、2010年以降は毎年経済成長率4%以上と右肩上がりが続く。輸出額の約80%が工業製品で、なかでもテレビやパソコン、デジカメなどの家電・IT関連商品が主要製品で、国内でもITインフラの整備を進めている。

その原動力となっているのが、2020年にデジタルエコノミー先進国入りを目指すという明確な目標だ。1996年に打ち出された「マルチメディア・スーパー・コリドー（MSC）」により、IT産業を中心とするサービス、知識集約型産業を育成。海外の大手企業を誘致し、世界一の技術吸収能力で、急速に技術を飲み込み、情報産業都市サイバージャヤなどのテクノロジーパークを建設した。そして、2012年には国家計画「デジタルマレーシア」を策定。この計画では、IT利活用の普及を促進させるエコシステムを創造することで、国民総所得の増加、生産性

の向上と生活水準の改善を目指している。

Facebookでのつながりを大事に 多民族モザイク国家のSNS交流

人口約3,000万人のマレーシアはマレー系、中国系、インド系に、その他の少数民族が混在する多民族国家だ。先住民優遇策（ブミプトラ）をとっており、テレビでも英語、マレー語、華語（中国語）、タミル語と多言語で放送されている。

有料衛星テレビの普及も200万人に達し、ブロードバンド加入者は246万人を超えている。携帯電話普及率は140%にまで達している。主要SNSはFacebookで、異なる民族との交流もSNSで円滑に進められる。

2013年に設置された 通信マルチメディア省

ITに関連する政府の動きも活発になっている。マレーシアでは、2013年に総選挙が行われているが、新内閣の組閣において、単独で情報通信セクターを所掌する省として、「通信マルチメディア省」が設置された。

同省では、携帯電話やインターネットの受信可能サービスエリアの拡大に向け、ブロードバンド普及率75%を目標に、全国規模での改善を図っている。

参考文献：『図解雑学 大発見! あなたの知らない世界地図』辻原康夫著（ナツメ社）、『新版 東南アジアを知る事典』桃木至朗ほか著、石井米雄ほか監修（平凡社）、『東南アジアを知るための50章』今井昭夫ほか編集（明石書店）ほか